

テーマ選択の理由

パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京といったファッション五大都市を中心に世界で活躍するデザイナー達のクリエイションは、ファッション業界だけでなく、その時代その社会でムーブメントを巻き起こし、結果として街に溢れ、ファストファッションなども含めた最新マーケットにも影響を与えている。

そうしたデザイナーたちの哲学や社会との関係性を探ることでクリエイティブの本質を見出し、彼らが成功した背景を知りたいと思った。

ピックアップデザイナー

世界最高の舞台であるパリコレで活躍し、それぞれの地域性とリンクするデザイナー(筆者自身が実際にファンでもある)を三人選んだ。

1・Comme Des Garçons (日本・東京)

・デザイナー：川久保玲 (1942,東京) 慶應義塾大学文学部卒。スタイリストとしてキャリアをスタートするも、1973年、自身のブランドをスタート。81年にパリに進出し、「黒の衝撃」と呼ばれる激しい賛否両論の渦を巻き起こした。

・哲学：「新しいものをつくる」という姿勢で、過去や社会への反抗、そして現在を超えようとする挑戦、といった意識を日本の文化とともに社会に対する難解なメッセージとしてクリエイションを続けている。

2・Vivienne Westwood (イギリス・ロンドン)

・デザイナー：ヴィヴィアン・ウェストウッド (1941,イギリス) 71年、Let it rock というショップをオープン。そして、74年から80年の「Worlds end」に至るまでパンクムーブメントを巻き起こす。現在は独自のカットティング技術を活かし世界のセレブから支持されている。

・哲学：重要な哲学は「反逆精神」。ただ反発するだけでなく、あらゆるものを疑ってかかり、ファッションや社会、セクシャリティをあらゆる面から分析、検証する。

3・Marc Jacobs (アメリカ・ニューヨーク)

・デザイナー：マークジェイコブス (1963,アメリカ) 97年、ルイヴィトンのアーティステックディレクター。そして、01年から「Mark by Mark Jacobs」に至るまでパンクムーブメントをスタートさせ様々な客層にアプローチできるようライセンスビジネスを積極展開。

・哲学：重要な哲学は「全ての女性にとって手が届き易く、着やすい服を作る事」。音楽、アート、デザイン、文化の深淵から知的かつ哲学的な概念を取り出し自信の感性でミックスさせるという手法をとっている。

各デザイナーの比較

1)ものづくりの手法

三者とも、ファッションにとどまらない様々なイメージソースからインスピレーションを得て、ファッションデザインに昇華させているという点では共通している。しかし、その引用元に独自性を感じる。

川久保は哲学や文化、日常生活など観念的なものを、ヴィヴィアンは反逆精神をベースに歴史と現在、嘲笑と敬意、異端と正統など相反するものを、そしてジェイコブスは少年期やティーンの頃の思い出や時代の気分など、ニューヨークの街から受けるインスピレーションをファッション

に表現している。

さらに、川久保は日本の着物の文化や、諸行無常の意識からくる不完全さを表し、ヴィヴィアンはイギリスの伝統であるタータンチェックやツイードをサブカルチャーとミックスし、パンクスタイルとして表現した。一方で、自由の国アメリカ出身のジェイコブスは、伝統や歴史、文化ではなく自身の思い出と“今の気分”を掛け合わせた「新しい女性像」に力を入れている。

以上の事から、同じパリで活躍デザイナーでもそれぞれの出身地と本質的な関わりがあり、グローバル化したファッション業界でも出身地は重要な要素となることがわかった。

2)現在の支持者層の比較

Comme Des Garçons：国内は服飾系の学生、海外ではファッション業界関係者から支持を得ている。

Vivienne Westwood：国内は20代前後の若者が多いが、海外ではセレブやアーティスト、クリエイターといった層から支持を得ている。

Marc Jacobs：バッグやアクセサリ、腕時計などの小物に加え、セカンドラインや多彩なライセンスブランドを展開することで、世界中の若者から支持を得ている。

3)社会的背景の比較

Comme Des Garçons：大量生産、大量消費の時代によって、一定の生活水準が広く一般化し、それまでとは逆に他者との差別化をすることに価値を置きだした。

Vivienne Westwood：ロンドンの街にたまった不安や怒りによるパワー、ヴィヴィアンの反逆精神と、イギリスの伝統やサブカルチャーのカラージュといったデザイン手法、それらがうまく噛み合っている。

Marc Jacobs：マーケティング重視の市場の中で、このように巨大資本の傘下に入らなければ難しい時代だった。

デザイナー達の今後

最近ではファストファッションなど様々なブランドの「それっぽい」コピー商品が出回っており、大半の消費者は「このデザインでこの値段ならいいか」という感覚で購入する。この状況を受け3者はどう変化して行くのか？

川久保の作り出す新しい服は今まで幾度も模倣されてきており、彼女はその度に新しい服を作り出すだろう。ヴィヴィアンの服を真似することは本質的に不可能である。なぜなら、その真似をするという行為自体がパンク精神とは真逆の行為であるから。ジェイコブスは「今」の気分をスタイルとして表現するデザイナー。彼のコピー品が出来上がるころには、全く別のコレクションを作り出しているだろう。